●編集／社会福祉法人やすらぎ会　広報委員会

平成18年3月25日発行

やすらぎ

第31号

特養住民／野中　ツナ 筆

「どれいがべなぁ～？」「これにするがぁ」

表紙の写真
　毎月第3金曜日に開催されているホーム喫茶での1コマ。お好みのお菓子と飲み物で、いつもと一味違ったくつろぎのひとときを過ごされます。

にぎやかな節分

行事 豆まき・雪灯り

「鬼は外　福は内」

去る二月三日、恒例の豆まきが行われました。今年は、沢内大正琴同好会の方々六名が来園され、地域交流スペースにてハーモニカ演奏と、大正琴を披露していただきました。約一時間程の演奏でしたが、とてもきれいな大正琴の音色が園内に響き渡りました。また、ハーモニカ演奏の際には、軍歌や童謡など住民の皆さんが知っている曲で、ハーモニカに合わせて、懐かしそうに歌を口ずさんでいる方もいらっしゃいました。最後には、「北国の春」を演奏していただき、皆で歌いました。ハーモニカの音色と、皆の歌声が重なり合い、盛大なものとなりました。

演奏終了後には、豆まきを行いました。今年も、赤鬼と青鬼が登場しました。皆さん、それぞれの想いを胸に、今年一年無事健康であることを願いながら、鬼は外、福は内の掛け声に合わせ、豆をまきました。中には、鬼を追い払う勢いで豆をまく方もいらっしゃいました。皆の勢いにとうとう負けた鬼は、歌の歌詞にもあるように、こっそり逃げていきました。鬼が逃げていくと、住民、職員皆で、豆をいただきました。久しぶりに食べた豆の味はどうですか？と聞くと、どの方も「うめなー」と笑顔で答えてくださいました。皆、食べることに夢中になり、気がつけば、ダンボールにいっぱいあった落花生は、ほとんど無くなっていました。

今年は、ボランティアの参加により、今までと違ったにぎやかさのある節分となりました。

介護職副主任　高橋　真希

沢内大正琴同好会の方々による大正琴の演奏

雪灯り・雪像作り

ぶなの園の冬を彩る・雪灯り

二月九日、毎年の恒例ともいえる雪像作りと雪灯りが行われました。この企画は、住民の方と中学生との交流の場の一環として、雪像作り及び雪灯りを生徒さん達が製作し、夕方からはろうそくを灯し住民の方々に鑑賞していただくことを目的としています。今年は、昨年よりも雪が多く吹雪の中での作業は大変ではないかと思われましたが、吹雪にも負けず作業している姿を見て、窓越しから住民の方々は「さむがべなぁ～。」「帽子も何もかぶらねで～。」「風邪ひがねばいいな～。」などと、まるで自分のひ孫をみているように心配そうな顔の方もいらっしゃいました。ある住民の方は、はりきって中学生の方と一緒に一生懸命作業されていました。短時間で、赤や青などの鮮やかな塗装スプレーを使用し、とてもユーモアがあり、かわいらしく出来上がりました。また、夜になると火を灯し、より一層きれいに見える雪灯りを見て、涙ぐまれる住民の方もおられました。

介護職　田中　江美

雪像作りボランティアに参加して

私は今回初参加だったので、最初は計画通りに終われるかとても心配でした。

ぶなの園に着くと、まず説明を受け、それから作業に入ったのですが、雪山が思っていたよりも大きくて、デザインを考えての作業となりました。私は雪灯りを作る事になりました。最初はスコップで掘っていたのですが、思ったより上手く掘れず、手作業で行いました。みんなでデザインを考えたり、色の配色を考えたりして楽しみながら出来てよかったです。私たちが作業していると、ぶなの園の方々が集まってきていて最初はちょっと恥ずかしかったのですが、おばあさん達が笑っている顔を見て、雪像作りを通して老人の方々との交流が出来ている感じがして「こういう交流の仕方もあるんだなぁ。」と思いました。

雪像は最初のデザインとは違っていたけれど、ぶなの園の方々に喜んでもらえるデザインになったと思うので良かったです。今回の活動を今後に生かしていきたいです。

沢内中学校二年　高橋　夏生

特別養護老人ホーム　ぶなの園

新しい住民ご紹介

平成18年1月～2月

1月入居

【安ヶ沢】

佐々木　力司さん

（76歳）

よろしくお願いします。

（年齢は2月末現在）

かたくりの園へ

よりよい送迎サービス
リフト付きワゴン車購入

この度、日本財団の助成を受けてリフト付きワゴン車を購入することが決まり、二月二十三日に納車となりました。この車両の整備によって、かたくりの園利用者や家族の希望する時間に伺うことができるようになるほか、車いすを使われている利用者の送迎サービスが安定的にできるようになり、利用者の個別のニーズにも対応できるようになりました。

利用される方々に喜ばれるよう、大事に使わせていただきます。

出前講座
～かたくりの園～

かたくりの園では、平成十六年九月から地域の方々に来園いただき、お話をしていただく『出前講座』を行なっています。

二月十四日には、西和賀町雪国文化研究所の小野寺聡氏を講師に来園いただきました。お話の内容は「雪とカンジキ」について、パネルや道具を使用して、利用者にも大変わかりやすく説明していただきました。

昔なつかしいケラを身につけての登場には、利用者の皆さんから「あやぁー。」と声があがりました。ケラは、まんだの木を水につけて皮を剥ぎ、その皮を編んで作ります。ケラは通気性が良いうえに、雨をはじく防水効果もあり、大変優れた機能を持っていることを聞き、皆さん感心していました。

カンジキでは、様々な種類を用意し、北海道や新潟、遠野など地域による形の違い、その理由やエピソードを交えて話していただきました。利用者からは、ケラの装着の仕方や紐の結び方を講師の方に教えるなど、とても和やかな雰囲気で行なわれました。

出前講座は、利用者が冬の間外に出る機会が少ないため、外部の方々からお話をいただくことで、大変よい脳の刺激となっています。

介護職　髙橋　浩子

かたくりの園「出前講座」

開催日	講座名		内容
H16.9.23	沢内駐在所	阿部　明	おれおれ詐欺の話し
H17.1.27	沢内村主任栄養士	泉　玲子	食事の話し
H17.2.25	沢内村保健師長	高橋美紀子	健康の話し
H17.3.10	沢内村商工会事務局長	高橋　康文	キノコの話し
H17.4.8	沢内駐在所	佐藤　勝	交通事故の話し
H18.1.14	西和賀町新町	加藤　節子	昔語り

色々な取り組み

よりよい園を目指して

堂々の研究発表

今回で七回目となった職員による事例研究発表会を、二月二十四日開催しました。当日は役員の方々の出席もあり、発表者に大きな声援が送られました。

今回は、やすらぎ会全事業所から七組の研究発表が紹介されました。

この発表会は、一年間の調査・実践をまとめ、サービスの向上と改善、そしてその成果と今後の課題について研究発表することが開催の趣旨であります。

一方、発表会のねらいは四つあります。一つは自分を高めようと言う自己研鑽意欲の向上です。自分を磨こうとする姿勢は、その人を輝かせます。

二つめは、発表を聴くことにより知恵を知り、自分を変えていくということです。その証しは、自分が変わることです。

三つめは、人前で発表するという勇気と度胸を培うことです。

四つめは、発表内容を施設経営や施設ケアに活用できるかを、積極的に検討することができます。

今回の発表は、いずれもコツコツと調べたり、実践したことを積み重ねた努力あふれた内容でありました。その中で特別賞には、かたくりの園「とっぴんぱらりのぷぅ」グループの「思い出を語り脳を活性化―〝回想法〟で生き生きと元気に―」が選ばれました。

高齢者の体験や人生を大切にし、理解し認め、それをケアの一手法として用いることにより、高齢者本人の脳を活性化させようとするものが回想法です。

奮闘賞には、デイサービスセンターぶなの園の「知りたいあなたの思い―認知症と向き合う―」が選ばれました。

自分の身体の状態や気持ちを、言葉で表現することが難しい認知症高齢者へのケアの方法と、平成十五年から十八年までの問題行動を調べ、その対応方法に検討を重ね、業務のマニュアルの作成に至るまでの発表でした。

第七回の発表もすばらしいものでした。役員の方々の出席もあり大変よかったと思いました。もっと多くの方々からも聞いてもらえれば、地域に開かれた施設づくりの一環として、一役になるとの思いをつのらせております。

施設長　髙橋　一雄

内部研修

やすらぎ会では、昨年九月から講師の方を招いて内部研修を行ってきました。

中堅職員、一般職員とに分かれ研修を行ってきました。去る二月二十日には、講師に長寿社会振興財団主任研究員及び全職員の参加のもと研修が行われました。

「二十一世紀に向けての社会保障について」という内容で講話いただきました。その中で、電機メーカーのソニーが高齢職員の教育で使用している「鳥の鳴き声クイズ」から、現代は高齢社会に向けて仕事内容の教育だけではなく、充実した生活を送るための教育も会社で必要となってきているというお話や、希望する定年後の生活のアンケート調査の中で、夫は家族や妻を大切にしたいと思っているのに対し、妻は友人や仲間を大切にしたいと思っているという調査結果などから、私たちひとり一人に直面していることを実感し、充実した生活を送るためには、ひとり一人が独自のアイディアを出し合い、工夫を凝らして実現しオンリーワンにすることが大切であり、それは会社組織の中でも重要なことである、とお話されていました。

今回の内部研修では、福祉に対する知識、技術、考え方など様々なことを学ぶことが出来ました。

今後もこのような研修を取り入れながら、これからの福祉社会に対応できる職員教育ができるよう、学習委員会として継続していきたいと思います。

介護職　泉川　瞳

こえ

～地域の方から～

湯田町商工会事務局長
田口光昭さん

今回は、西和賀で唯一の書店を営まれる一方、現在湯田町商工会事務局長を務められ、西和賀町の教育委員でもある湯本の田口光昭さんにスポットをあて、商工会の活動や西和賀への思いなどについて、「こえ」を寄せていただきました。

西和賀の誰もが語り部、ガイドマン

縁は異なもの、そしてありがたきものでございます。鉱山の縁で先々代が西和賀にお世話になって七十年、先の戦争が縁でこの里で暮らし始めた先代が、湯本に「まりや」の看板を掲げて六十年、私は今、縁あって「湯夢プラザ」で湯田町商工会（四月から西和賀商工会）事務局長として、育てていただいたこの里への恩返しの思いで、観光振興を地域商工業振興の柱に据え、温泉を活かした観光立町をめざす商工会業務に携わっています。

全てに厳しい現状課題克服最善の選択「町村合併」による西和賀町誕生を契機に、西和賀を訪れるお客様が、豊かな四季と普段着の西和賀の暮らしに触れ、楽しんでもらえる真の「西和賀ブランド」創りが始まります。

私たちは、西和賀だから出来るおもてなしの心で湯夢プラザと西和賀の各地域を結ぶ、商工会発のメニューとコース創りに着手、嘗て湯田町景観形成基本方針の一つに謳われた「物語の宿る歴史景観づくり」を手法に、西和賀型体験観光を推進し、奥羽山系の味付けいっぱいに、西和賀ならではの物語の宿る地域づくりの提案を続けております。目指すところは、「西和賀の誰もが語り部、ガイドマン」。

まずは、西和賀人の営みによって培われた叡智を、魂として西和賀ブランドに注ぐことこそ肝要と心得ます。新しいまちづくりを、「西和賀物語」として綴る時、第一章には、町史・村史に刻まれ、湯田町民憲章・沢内村民憲章に描かれた、艱難辛苦を乗り越えこの里を築き今に引き継いでくれた人々の営みと願いの「物語」が添えられることでしょうが、車・テレビ・パソコン・携帯電話等ライフスタイルの激変は、この里でも、爺婆や父母から子や孫へ「地域づくり」を「物語」として伝える術と時間を奪ってしまいました。

時の移ろいから、戦中戦後や鉱山の暮らし、そしてブルドーザー導入前の西和賀の暮らしなどの話を聞く機会が薄れて来ていたところに、未曾有の十二月集中豪雪に見舞われ、このまま降り続いたらと思った時、昔の雪国暮らしの備えを語り伝える習慣を失って久しいことに気が付きました。

このこと一つに、過疎の進むこの里の行く末に不安が募ります。しかし、決して過疎を嘆いてばかりはいられません。西和賀は高齢社会の先進地として、高齢者のいきいきした里を実現することで、里づくりの襷を受けてくれる次の世代がこの里で生きる選択をしてくれる光明を見出さなければなりません。

ぶなの園の営みもその一つです。園には若いスタッフがたくさんおります。ぶなの園に入所されている皆さんが元気に活躍された世代と地域の営みを物語に導き、例えば紙芝居等里の子供たちに伝える手立てのシリーズ「ぶなの園物語」の製作に取り組まれるのを期待します。

合併の今こそ、物の氾濫する今の暮らしが砂上の楼閣と終わらぬよう、この里の幾世代の暮らしと、風化しつつある戦後の時代を生きて来て今があることを語り伝えて欲しいと願うのです。

その時代の一つに「奥羽山系襞の深雪を終の地に」と西和賀の風土を詠み続けて夭逝した、角川俳句賞を受賞した郷土の俳人、山崎和賀流の句

就職列車発つ「東京の塵になるな」

百姓にまた職歴の増ゆる冬

に描かれている時代がありました。

この句の世界に思いを致す時、合併新町誕生に立ち会った同時代人として、次世代が進学する学校も、自分の将来を託す職業の選択も、幅広い選択肢の中で出来る地域環境を導くこと一途に、地域連帯感の造成に汗する責務を背負ったと強く感じながら、後世の語り部の「西和賀物語」に、この里に誇りを持ち、輝く世代が綴られていることを願っています。

実習を通して

西和賀高等学校
三年　平澤　歩惟さん

今年度、訪問介護員養成研修二級過程の研修の一環として、特別養護老人ホームやデイサービス、訪問看護の実習をさせていただきました。三回の実習での私の目標は、介護技術を学ぶことと高齢者の方とのコミュニケーションの方法を学ぶことでした。

私はボランティア活動や二年生のときの実習で苦手だったことは、施設の住民や利用者の方とのコミュニケーションでした。住民の方と会話していてもすぐ終わってしまって、沈黙が続くこともありました。しかし、今回の実習では徐々にではありましたが、住民の方々と話を続けることができました。住民の方から話しかけてくださった時もあり、あまり緊張しないで話をすることができました。

また、職員の方を見ていると、どんな時でも必ず声がけをしていて、住民の方も話をするのが楽しそうでした。私も職員の方のようになりたいなと思い、まず最初に心がけたのが元気な挨拶でした。会う人には必ず挨拶をして、それから話をしたり、作業の手伝いをするように心がけました。挨拶をするのは当たり前のことだと思いますが、元気良く挨拶をすることで、緊張も解け、明るく実習に臨めたと思います。

介護技術では、高齢者の方が食べやすいような調理方法や、移乗の際に相手にも自分にも負担がかからないような方法など、様々なことを学ぶことができました。

今回の実習を通して、介護技術や高齢者の方とのコミュニケーションの方法を学ぶことができました。そして、介護者として自分に足りない部分、改善していかなければならない部分を知ることができました。今回学んだことを今後の生活に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

こえ

～特別編～

今号では、東京在住の井口文子さんより、ぶなの園の印象や入居されている実母への思いなどを綴った「こえ」をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

私の母（高橋マツエ・前郷）は、六月に誕生日を迎えますと、満百歳になります。

ぶなの園に入所させていただき三年近くになりますが、皆様の行届いた暖かい介護のおかげで、元気に生活させていただいております。

子供でありながら、母の世話も出来ずに心苦しく、せめてできるだけ会いにと思い、年に三回ほど帰郷してます。いま私は東京に住んでいますが、最初、ぶなの園に行って、きれいでよくできているのに、驚きました。

沢内にこんな立派な施設ができて、母もぶなの園の住民になれてよかったと思っております。実家の姉、また近くにいる私の兄と姉達が、毎週会いに行ってくれますので私も安心です。週一度姉の携帯に電話して、（今何をしているの？　元気？　またねバイバイ）と定期便のように直接母の声を聴いて、元気づけています。時々母は、電話の中で童謡を歌います。年を取ると子供に帰るといいますが、その方が母にとっては、幸せかもしれません。母はよく、私は幸せ者だといいます。

その言葉は私にとって救いです。どんなに年をとっても、私は母が大好きです。これからも、ずっと、長生きをしてほしいと、朝夕、仏様にお願いをしております。昨年の白寿の祈り、皆様に祝っていただいた時、母が、施設長さんから頂戴した色紙（一日一生）も、自分で大きい声で読めましたし、百歳がとっても楽しみです。ぶなの園の皆様方には、本当によくしていただいております。

やさしくおもいやる、慈愛の心がないとできないことだと思います。この姿を拝見させていただき、私も何か人のために、役立つことができたらと、心から深く思うようにさせていただきました。有難とうございます。

これからも、私の故郷が変らず、あったかい、沢内であってほしいと願っております。

（東京・井口文子）

■特別養護老人ホームぶなの園
■デイサービスセンターぶなの園
■沢内村在宅介護支援センター
■ホームヘルプステーションぶなの園
■西 和 賀 介 護 相 談 室

西和賀町沢内字太田2地割135番地
電話 0197-85-2322

■沢内村高齢者生活福祉センター
かたくりの園

西和賀町沢内字大野17地割140番地1
電話 0197-85-3388

編集後記

ようやく、春めいてまいりました。日差しも暖かくなり、気分も何となく軽くなり、幾分過ごしやすくなったように思います。

これからの季節、天候に恵まれることを祈るとともに、広報も順調に進めていきたいと思います。

尚、合併に伴いまして前号（第30号新年号）より旧湯田町の方々にも全戸配布しております。ごあいさつが遅くなりましたが、よろしくお願いします。

やすらぎ
第31号　平成18年3月25日発行
社会福祉法人やすらぎ会
広報委員会
高橋　宏明　　高橋　直美
上中屋敷陽子　　佐々木菜穂子
高橋　浩子

善意 ありがとうございました 感謝申し上げます

平成18年1月～2月

【ご寄贈】
・北島　文子 様

【ご寄贈】
・川舟地区婦人部 様
・佐藤　タダ子 様
・亀井　久司 様
・高橋　郁代 様

【ボランティア等】
・どれみの会 様（洗濯たたみ等）
・泉沢婦人会 様（ホーム喫茶）
・太田婦人会 様（ホーム喫茶）
・沢内大正琴同好会 様（楽器演奏）
　高橋　定雄 様（楽器演奏）
・加藤　節子 様（昔語り）
・小野寺　聡 様（講話）

ぶなの園 待機者情報（平成18年3月10日現在）

①出身地別状況	
西和賀町（34名）	秋田県（2名）
北上市（4名）	東京都（1名）

②介護度別状況	
要介護1（8名）	要介護4（9名）
要介護2（10名）	要介護5（5名）
要介護3（9名）	

合計41名

※入所を希望される方は、担当のケアマネージャ及び、ぶなの園までご連絡下さい。

ホーム喫茶のご案内

開店日　4月21日(金)
5月19日(金)
6月16日(金)

ご利用時間　14:00～16:30

場所　ぶなの園 地域交流の場

お待ちしております！